

## 2. 学部授業科目

授業科目名 (英文表記)	経営人類学 (Anthropology of Business Administration)		
単位数	2 (学部生のみのみ)	授業形態	講義
担当教員	出口 竜也		
開 講	南紀熊野サテライト	区 分	学部開放科目
実施日・時間	① 5月7日(土) 13:00~17:00	観光学部	出口竜也 (ゲスト 中牧弘允氏、日置弘一郎氏)
	② 5月21日(土) 13:00~17:00	観光学部	出口竜也 (ゲスト 岩井 洋氏、市川文彦氏)
	③ 6月18日(土) 13:00~17:00	観光学部	出口竜也 (ゲスト 三井 泉氏、竹内恵行氏)
	④ 6月25日(土) 13:00~17:00	観光学部	出口竜也 (ゲスト 八巻恵子氏、河野憲嗣氏)
	⑤ 7月9日(土) 13:00~17:00	観光学部	出口竜也 (ゲスト 奥野明子氏、マリア・ヨトヴァ氏)
	⑥ 7月23日(土) 13:00~17:00	観光学部	出口竜也 (ゲスト 中牧弘允氏、日置弘一郎氏、住原則也氏)
<b>【授業のねらい・概要】</b>			
<p>「経営人類学」とは、「会社」や「経営」の問題を人類学的アプローチで明らかにしようとする学問領域です。日本では、1993年に大阪の国立民族学博物館において組織された共同研究会が契機となって研究が進んでいます。そこでは、それぞれの「会社」が独自に保有する理念・価値観、あるいはそこで働く人々の仕事ぶりや生活パターンなどが主として文化的側面から比較・検討され、その普遍性と個性がさまざまな学問分野の研究者によって検討されてきました。そして、こうした学際的な共同研究が構想されたきっかけは実は和歌山にあります。この授業では、この新しい学問領域が日本において誕生したエピソードや、そこで議論されたさまざまなテーマについて、共同研究会に参加したメンバーの方々を順次ゲスト講師としてお招きし、お話しいただくとともに、受講生の皆さんと活発な意見交換も行いたいと考えています。</p>			
<b>【授業計画】</b> ※記載の内容、および授業の順序は変更になることもあります。			
<p><b>第1回 経営人類学とは何か</b> (ゲスト 中牧弘允氏、日置弘一郎氏) 日本における経営人類学誕生のエピソードや、国立民族学博物館における共同研究会の継続的開催によってどのような研究テーマが取り扱われてきたのかを通じて、この学問領域の全体像について解説していきます。</p>			
<p><b>第2回 会社とは何か</b> (ゲスト 岩井 洋氏、市川文彦氏) 会社とは何かを利己と利他、公共性、宗教性、共同性、永続性、そして事業承継などの観点から経営人類学的に明らかにしていきます。</p>			
<p><b>第3回 会社の諸相</b> (ゲスト 三井 泉氏、竹内恵行氏) 組織としての会社が持つ多様な側面について検討していきます。前半ではヒトの側面を取り上げます。ヒトはなぜ組織をつくるのか、ヒトの「やる気」や組織の「パワー」はどこから生じるのか、「掟」や「ルール」がどのように形成されて人々を無意識のうちに縛るのかなどについて考えていきます。後半では、会社が対外的・対内的に行う自己演出のありようについて、各種協賛事業や企業博物館を通じて明らかにしていきます。なぜ会社は地域の祭りに人や金を出して参加するのか、なぜ会社が博物館や美術館を持つのかなどを論点にして会社の個性を検討していきます。</p>			
<p><b>第4回 実務家教員から見た経営人類学の意味と意義</b> (ゲスト 八巻恵子氏、河野憲嗣氏) 元CA(八巻氏)および元銀行員(河野氏)のキャリアを持つ実務家教員から見た経営人類学の意味や意義について、ご自身の実務経験等を踏まえて解説していきます。</p>			
<p><b>第5回 多文化とジェンダー</b> (ゲスト 奥野明子氏、マリア・ヨトヴァ氏) グローバル時代の会社経営や雇用について、多文化とジェンダーの観点から経営人類学的に明らかにしていきます。</p>			
<p><b>第6回 まとめ ~経営人類学のこれから~</b> (ゲスト 中牧弘允氏、日置弘一郎氏、住原則也氏) これからの会社社会のゆくえについて経営人類学的観点から考察し、受講生との間で意見交換を行っていきます。</p>			
<b>【到達目標】</b>			
<p>文化人類学、社会学、宗教学、経営学、経済学など多様な枠組みによる見方の違いを学ぶとともに、「会社」や「経営」にかかわる問題を学際的に研究する特徴(利点・欠点)を理解する。</p>			
<b>【教科書】</b>			
中牧弘允・日置弘一郎・竹内恵行編(2019)「テキスト経営人類学」東方出版 ISBN-10: 4862493661 2,200円			
<b>【参考書】</b>			
授業を通じて数冊紹介する予定です。			
<b>【授業時間外学習】</b>			
あらかじめテキストの指定された箇所を読み込むとともに、毎回の課題をしっかりとこなしてください。			
<b>【履修上の注意・メッセージ】</b>			
基礎知識がなくても理解できるように授業を構成しますが、各自で教科書等を読んで理解を深めるようにしてください。講義は1回完結です。			